

林業経済学会主催、森林計画学会・森林利用学会共催 合同シンポジウム

「2050年、日本の林業はどうか? ―若手・中堅研究者が斬る―」

【趣旨】

2050年に日本林業はどのようになっているのであろうか。その姿を描くことを主眼に、林業経済学会、森林計画学会、森林利用学会の林業を主たる研究分野とする学会が集い、30年後を担う中堅3名からの報告を受けて討論するシンポジウムを企画した。

参加者各位との意見交換も併せ、一定の方向性を見い出していきたい。

【日程】2019年12月23日(月)12:30 開場

13:00～13:10 開会・趣旨説明 立花 敏 (林業経済学会広報渉外担当理事・筑波大学)

13:10～13:50 第1報告 多田 忠義 (農林中金総合研究所)

人口・世帯予測と社会経済シナリオに基づく将来日本の森林セクター評価

13:50～14:30 第2報告 齋藤 仁志 (岩手大学)

伐出技術から見た木質資源利用可能性と素材生産の展望

14:30～15:10 第3報告 中島 徹 (東京大学)

林業経営の採算性を考慮した木質資源の循環利用可能性に基づく森林計画の評価・提言

15:10～15:30 休憩 (セッティング)

15:30～17:00 報告者によるパネルディスカッション (座長 立花敏)

17:00～17:10 総評 白石 則彦 (森林計画学会会長・東京大学)

17:10～17:20 総評 山田 容三 (森林利用学会会長・愛媛大学)

17:20～17:30 総評 堀 靖人 (林業経済学会会長・森林総合研究所)

17:30 閉会

【総司会】関岡東生 (東京農業大学)

【会場】東京農業大学横井講堂 (農大アカデミアセンター地下1階) 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

【後援】一般社団法人 日本森林学会、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所、一般財団法人 林業経済研究所、公益社団法人 大日本山林会、農林中央金庫、(株) 農林中金総合研究所、全国森林組合連合会、一般社団法人 日本森林技術協会